

平成30年度国立大学法人等  
職員採用（図書系）第二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は**15問（23ページ）**で、解答時間は**1時間30分**です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄に第一次試験受験番号、第一次試験合格通知書番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号	第一次試験合格通知書番号
氏名	

指示があるまで中を開いてはいけません

## 【No. 1】

次は、国立大学図書館協会の「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて ～国立大学図書館協会ビジョン2020～」(平成28年6月17日策定)の一部である。学術コミュニケーションの変容や大学図書館に期待される役割の変化に対応するため、「大学図書館の基本理念」を定めるとともにそれを実現するための3つの重点領域が設定された。この3つの重点領域を読んで、以下の設問に答えなさい。

**国立大学図書館機能の強化と革新に向けて  
～国立大学図書館協会ビジョン2020～ (抜粋)**

**大学図書館の基本理念**

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

**重点領域 1. 知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有**

大学図書館は、知の共有という観点から、大学における教育・研究に必要な知識、情報、データを網羅的に提供する必要がある。紙の図書や雑誌等によって構築された従来の蔵書に加え、電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース、機関リポジトリに収載される研究論文、学習教材やデータといった教育研究成果、さらにはインターネット上にあつて誰もが自由にアクセスできる有用なコンテンツをも含む全体を対象として知の共有のための方策を検討し、実現する。

**重点領域 2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供**

大学図書館は、これまで人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を生み出すコミュニケーションの場であり、知を創出する空間であった。これからは、旧来の「館」の壁を超えてその場を拡張し、さらには物理的な場だけでなく、知のネットワーク上に存在する仮想空間を新たな知を創出するための場として活用することにより、教育・学習の質を向上させ、研究活動を支援するとともに、大学と社会との連携を促す。

**重点領域 3. 新しい人材：知の共有・創出のための＜人材＞の構築**

大学図書館は、さまざまな能力やスキルを有する人材が混在するハイブリッド(複合的)な人材の集合体を形成することで、大学図書館に期待される新たな役割を果たすと同時に、多様な知の共有と創出を促す。そのために、新たな人材の構築が実現できるような制度を整備する。

これら 3 つの重点領域を実現するための大学図書館の取り組みとして考えられる活動や課題をそれぞれ 2 つ挙げなさい。

- (1) 「重点領域1. 知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有」
- (2) 「重点領域2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供」
- (3) 「重点領域3. 新しい人材：知の共有・創出のための＜人材＞の構築」

## 【No. 2】

次は、日本の図書館関係雑誌の歴史に関する記述である。(1)～(4)に該当する雑誌名を下から選んで記号で答えなさい。

- (1) 日本図書館協会の前身である日本文庫協会(1892年設立)の機関誌  の創刊は資金難などから実現が遅れ、協会発足から15年を経た1907年であった。日本における初の図書館関係雑誌は、関西文庫協会が1901年に創刊した『東壁』である。
- (2) 間宮不二雄らが中心となり1927年に設立された青年図書館員聯盟の機関誌  には、水準の高い図書館学研究論文や実践報告が多数掲載された。例えば、『日本十進分類法』も1929年の刊行に先立って  1巻2号(1928年4月)に試案が発表された。
- (3) 情報科学技術協会が刊行する  は、企業の情報部門担当者、大学図書館員や専門図書館員などを対象とした、図書館情報学の各分野をレビューする論考を多く掲載している。同誌は協会の名称変更に伴い、『UDC Information』(1950年-1958年)、『ドキュメンテーション研究』(1958年-1987年)と誌名変遷を経て、現在の名称となっている。
- (4) 館種別の専門雑誌として、『学校図書館』(全国学校図書館協議会, 1950-)、『専門図書館』(専門図書館協議会, 1952-)、『医学図書館』(日本医学図書館協議会, 1954-)、『薬学図書館』(日本薬学図書館協議会, 1956-)が順次刊行され、大学図書館関係の専門誌としては、 (国公立大学図書館協力委員会)が1972年に刊行された。 は2016年刊行の106号をもって冊子体での発行を終了し、以降はオープンアクセス誌として電子版の配信を開始している。

- |             |                |                |
|-------------|----------------|----------------|
| (a) オンライン研究 | (b) カレントアウェアネス | (c) 現在の図書館     |
| (d) 情報管理    | (e) 情報の科学と技術   | (f) 大学図書館研究    |
| (g) 大学の図書館  | (h) 図書館界       | (i) 圏研究(図書館研究) |
| (j) 図書館雑誌   | (k) 図書館の譜      | (l) 図書館評論      |

## 【No. 3】

次は、書物の形態の変遷を記述したものである。これを読んで以下の問いに答えなさい。  
 なお、文中の〔ア〕、〔イ〕、〔ウ〕は本の形態、〔あ〕、〔い〕、〔う〕は人間の動作を表しており、〔あ〕、〔い〕、〔う〕は語尾変化する場合もある。

本の形は、時代や場所によって常に変化してきた。〔ア〕、〔イ〕、〔ウ〕の順番に。不思議なことに西洋でも東洋でもこの大きな流れは一致する。「〔あ〕」「〔い〕」「〔う〕」という人間の動作と連動しながら本の装丁は進化を遂げてきた。

まずは〔ア〕〔あ〕から。その原始的な形態は、紙以前、すなわち木や竹に記録していた時代からすでに始まっていた。

印刷物にも同じ形式が用いられた。最初期の出版物である日本の百万塔陀羅尼は〔あ〕状態で、小塔におさめられていた。省スペースにはもってこいの装丁である。特に紙が登場すると、糊づけすれば長いものを用意できた。原理的には無限に近い〔ア〕に物語をおさめることが可能なわけだ。

けれども〔ア〕には、大きな欠陥がある。読みづらいのだ。長い〔ア〕を開き、かつ読後は再度〔あ〕直さなくてはならない。しかもきちんと〔あ〕戻さないと、戻らない〔い〕目がついてしまうことがある。

そこで、実用性と保存性という相反する要望にこたえるよう、誕生したのが〔イ〕〔い〕である。〔ア〕を一定幅で〔い〕と、細長い短尺のような本ができあがる。収納場所を探すのもさほど苦にならない。「〔い〕」動作がこんな便利な本を登場させた。

けれども〔イ〕にも欠点がつきまとう。まさにこの〔い〕が弱点なのだ。読むうちに〔い〕目から切れていき、本が壊れてしまう。実用性を向上させた一方で、使えば使うほど保存性が落ちていく。〔イ〕は〔ウ〕への過渡期と考えたい。

いよいよ〔ウ〕〔う〕の登場。かなり乱暴な言い方だが、〔イ〕の片側を糸や糊で〔う〕、もう一方を切り離せば、〔ウ〕ができあがる。専門用語で〔う〕側を〔エ〕、切り離す側を〔オ〕という。読むことを前提にしている分、とくに〔エ〕部分が壊れやすい。しかしめくるだけで好きなページを開くことができるという利便性は、革新的であった。

(図説本の歴史 / 樺山紘一編. 河出書房新社から抜粋, 一部改変)

(1) 下の表の該当する箇所にあてはまるものを下から選んで記号で答えなさい。

時 代	本の形	人間の動作
古	(ア)	(あ)
↓	(イ)	(い)
新	(ウ)	(う)

- (a) 写す                      (b) 折本                      (c) 折る                      (d) 重ねる  
 (e) 刻む                      (f) 筐体                      (g) 冊子体                      (h) 刷る  
 (i) 束ねる                      (j) 竹簡                      (k) 綴じる                      (l) 縫う  
 (m) 粘土板                      (n) 巻物                      (o) 巻く                      (p) 磨く

(2) 文中の (エ), (オ) にあてはまる語句を下から選んで記号で答えなさい。

- (a) 奥付                      (b) 角衣                      (c) 小口                      (d) 題箋  
 (e) 地                      (f) 天                      (g) ノド                      (h) 見返し

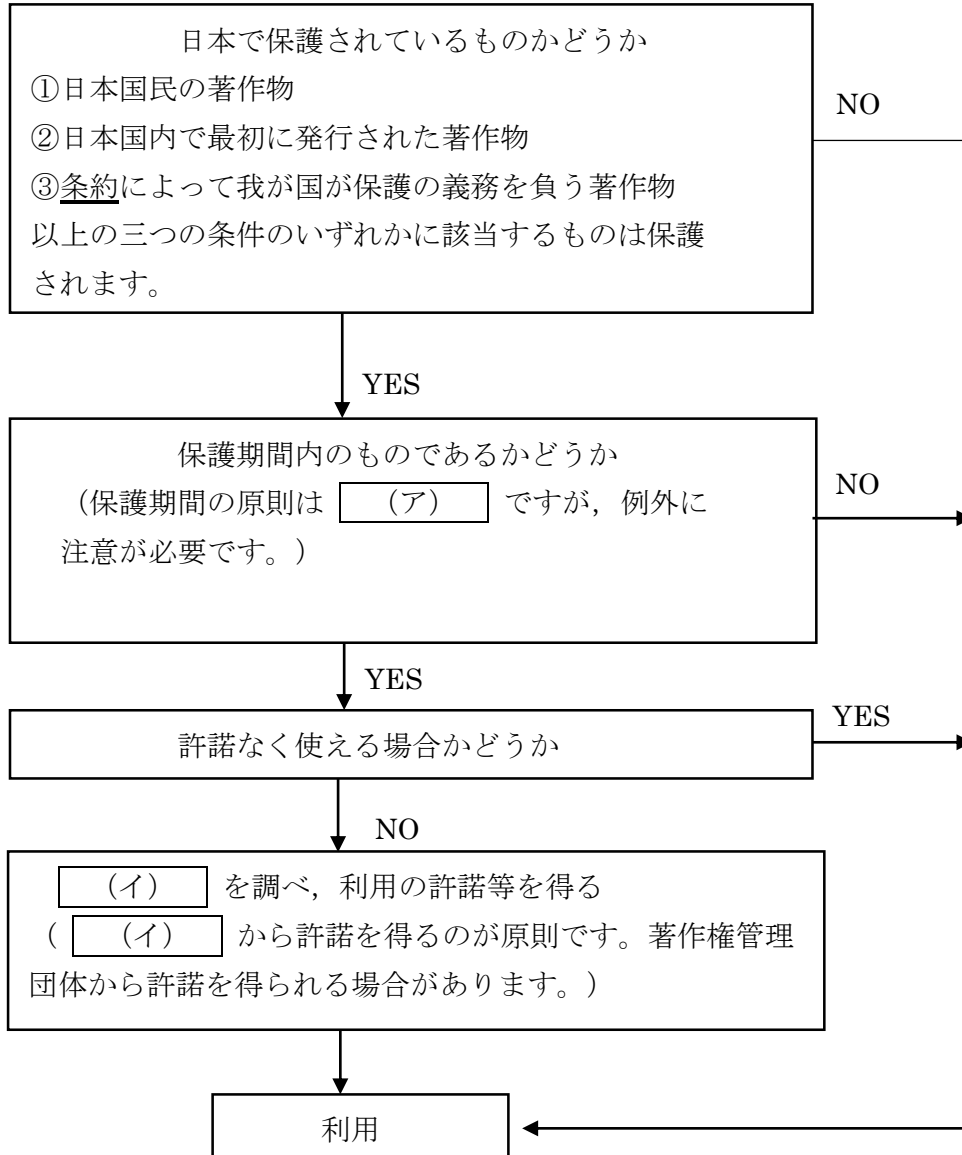
## 【No. 4】

次は、図書館の理念に関する文書についての記述である。正しいものに○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) アメリカ図書館協会は、図書館と利用者の知的自由を守るための基本方針として1939年に「図書館の権利宣言」を採択した。採択当初は図書館の利用に関する個人の権利の平等な保障は含まれていなかったが、公民権運動などの社会的背景を受けて、1961年には、図書館利用に差別があってはならないことを条文に追加した。
- (2) ユネスコは1990年代に「公共図書館宣言」、「学校図書館宣言」、「学術図書館宣言」の3つを定め、それぞれの社会的使命を掲げている。「学術図書館宣言」は大学図書館や学術機関の図書館が知を広く万人に開放すべきことを掲げている。
- (3) 日本では日本図書館協会が1954年に「図書館の自由に関する宣言」を採択した。同宣言では、「図書館の自由」に関する原則は、基本的人権の一つとしての知る自由を保障するためのものであって、大学図書館を含むすべての図書館に基本的に妥当するものとされている。
- (4) 日本図書館協会の「図書館員の倫理綱領」（1980年）は、図書館員の専門性を確立しようとする動きを背景とするが、司書資格を持つ正規の職員だけでなく、アルバイトや派遣職員等の非正規・非専門職も含む図書館に働くすべての職員を対象としたものとして採択された。

## 【No. 5】

次は、著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）による著作物の正しい利用方法について、文化庁ウェブサイト内「著作物の正しい利用方法」に掲載されている「著作物を利用する場合の手順」を示したものである。これに関する以下の問いに答えなさい。



他人の著作物を利用する場合、相当な努力を払っても (イ) がわからない場合や、(イ) がわかるがその居所が不明で交渉ができない場合、(ウ) の裁定を受け所定の補償金を供託することにより、著作物を適法に利用することができる。



- (1) 下線部の条約は、1886年に創設され、日本は1899年に加盟した。この「無方式主義」等の原則を定めた著作権保護の基本条約とは何か、名称を日本語で答えなさい。
- (2) (ア)に入る語句として「映画・写真以外の著作物」の場合に正しいものを(a)～(f)から一つ選び答えなさい。
- (a) 出願公告日から15年間
  - (b) 出願公告日から50年間
  - (c) 著作者の死後50年間
  - (d) 著作者の死後70年間
  - (e) 著作物の公表後25年間
  - (f) 著作物の公表後70年間
- (3) (イ)に該当する語句を答えなさい。
- (4) (ウ)に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。
- (a) 国立国会図書館長
  - (b) 知的財産高等裁判所長
  - (c) 文化庁長官
  - (d) 法務局長
  - (e) 文部科学大臣

【No. 6】

次は、図書館で用いられる分類法についての記述である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

現在日本の図書館でもっとも多く採用されている分類法である (ア) の分類体系は、知識の体系に基づき主要な学術・研究領域を列挙し、第一次区分としている。その記号法は、1876年にアメリカで公表された (イ) に倣っているが、主題の排列はカッター (C. A. Cutter, 1837-1903) の (ウ) を参考にしている。

すべての主題に対応する分類記号をあらかじめ表中に用意した分類法を列挙型分類法といい、(ア) や (イ) は基本的にこれに該当する。一方、各主題分野を分析して得られる基本的な要素とその要素どうしの結びつけ方を示す分類法を (エ) といい、ランガナータン (Ranganathan, Shiyali R., 1892-1972) が1933年に発表したコロン分類法(CC)はその典型である。

(1) (ア)～(ウ)に該当する分類法の名称を以下の(A)～(F)から選び、それぞれに該当する分類法の構成を以下の(a)～(c)から選び答えなさい。

分類法の名称

- (A) アメリカ議会図書館分類法(LCC) (B) 国際十進分類法(UDC)  
 (C) 国立国会図書館分類法(NDLC) (D) デューイ十進分類法(DDC)  
 (E) 展開分類法(EC) (F) 日本十進分類法(NDC)

分類法の構成

(a)	(b)	(c)
0 総記	A 総記	0 総記
1 哲学	B-D 哲学・宗教	1 哲学
2 歴史	E-G 歴史諸科学	2 宗教
3 社会科学	H-K 社会科学	3 社会科学
4 自然科学	L-Q 自然科学	4 言語
5 技術	R-U 技術	5 純粋科学
6 産業	V-W 芸術	6 技術
7 芸術	X 言語	7 芸術
8 言語	Y 文学	8 文学
9 文学	Z 図書学	9 地理・歴史

(2) (エ)に該当する語句を答えなさい。

【No. 7】

次は、米国議会図書館バーバラ B. ティレットによる RDA(Resource Description and Access) についての文章の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Libraries are in danger of being marginalized by other information delivery services as they have not had a strong presence with other services in the information community on the web. Bibliographic control is based on the (1) format, which is not suited to the Semantic Web environment. For example, (1) is not granular enough to distinguish among different types of dates, and it puts many types of identifying data into a general note which cannot easily be parsed for machine manipulation.

Current online catalogs are no more than electronic versions of card catalogs with similar linear displays of textual information. Yet, the metadata libraries provide could be repackaged into interesting visual information, such as time-lines for publication histories and maps of the world to show places of publication, similar to VIAF displays. Librarians could build links between works and expressions – like original works and their translations or novels that form the basis for screenplays – to navigate these relationships rather than rely on textual notes that are not machine-actionable. Libraries can make their data more accessible on the web.

In order to help reduce the costs of cataloging, librarians need to reuse publisher and vendor metadata. Libraries must share metadata more than they have to reduce the costly, redundant creation and maintenance of bibliographic and authority data. RDA positions libraries for a linked data scenario of sharing descriptive and authority data through the web to reuse for context-sensitive displays that meet user needs for languages/scripts they can read.

By providing well-formed metadata that can be packaged into various schema for use in the web environment, RDA offers a data element set for all types of materials. It is based on internationally agreed principles, incorporating the entities and relationships from IFLA's conceptual models. It focuses on the commonalities across all types of resources while providing special instructions when there are different needs for types of resources, such as music, cartographic, legal, religious and rare materials and archives, or refers to specialized manuals for more granular description of such materials.

Vendors and libraries around the world are being encouraged to develop better systems that build on RDA. Once RDA is adopted, systems can be redesigned for today's technical environment, moving libraries into linked data information discovery and navigation

systems in the internet environment and away from online public access catalogs (OPACs) with only linear displays of textual data.

This is a transition period when libraries want and need to move bibliographic data to the web for use and re-use. RDA is not the complete solution, but its role as a new kind of content standard may smooth the path in that direction.

Two other components are also needed: firstly, an encoding schema that maintains the integrity of RDA's well-labeled metadata – the aforementioned transition from

(1)

– and, secondly, systems that can accommodate RDA to harness its full potential to express relationships among resources.

Library administrators need to understand that the full benefits of investment in these components now will not be realized immediately, but the investment is critical to the future health and role of libraries.

RDA makes library bibliographic descriptions and access data more internationally acceptable. There is still more work to be done, but the direction is set.

(1) 文中の (1) に該当する語句を以下の選択肢から選び記号で答えなさい。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| (a) BIBFLAME | (b) DCMES |
| (c) DC-NDL   | (d) MARC  |
| (e) RDF      | (f) SKOS  |

(2) 下線部について該当する用語を一つ答えなさい。(日本語, 英語, 英語省略形いずれでも可)

(3) 目録作業者が作業を効率化させるために必要なことについて, 文中に述べられている内容を日本語で答えなさい。

## 【No. 8】

次は、電子ジャーナルの整備と普及によって我が国の大学がどのような影響を受けたかについての説明である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 冊子体から電子版への移行に伴う設備投資のために、学術出版社の合併・吸収による寡占化が進行し、学術雑誌の急激な価格高騰とそれに伴う大学図書館での購読中止により、各大学で利用可能な平均タイトル数は冊子体購読時よりも大幅に減少した。その結果、学術論文をインターネット上で自由にアクセスできるオープンアクセスを推進しようという動きが全世界的に広がりを見せるようになった。
- (2) 電子ジャーナルが普及し始めた当初は、冊子体と電子版の両方を提供する形態が多かったが、冊子体の学術雑誌の刊行をやめ、電子版のみ提供する形態が増加しつつある。図書館資料費に占める電子ジャーナル経費の割合も年々増加しており、2012年度の「学術情報基盤実態調査」では、国公私立大学の総資料費に占める電子ジャーナル経費の割合が図書経費を超え、それ以降の調査結果からも電子ジャーナル経費を確保するために、大学が図書や冊子体の学術雑誌等の購入経費を削減している傾向がうかがえる。
- (3) 出版社に対して強い姿勢で価格交渉を行い、図書館に有利な条件での共同購入を目的とした協力組織であるコンソーシアムが必要とされるようになった。我が国においては、国立大学、公私立大学で別々に組織されていたコンソーシアムを2011年に統合した大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が設立され、一元的な交渉窓口の役割を担っている。
- (4) ビッグ・ディールと呼ばれる包括的購読契約により、各大学で利用可能なタイトル数が増えたことから、NACSIS-ILLにおける文献複写依頼件数は2005年をピークに減少した。しかし、近年、図書館予算の削減と電子ジャーナルの価格上昇によりビッグ・ディールを中止する大学が増えてきたことから、文献複写による代替アクセスの需要が高まり、2013年からは再び文献複写依頼件数は増加している。
- (5) 我が国の研究者を対象とした調査（SCREAL：学術図書館研究委員会）によると、自然科学分野、とくに薬学、生物学、物理学、医学等の分野では半数以上の回答者が電子ジャーナルをほぼ毎日利用していることが示された。一方、人文社会科学分野においても電子ジャーナルの利用は浸透しつつあり、2014年の調査では、「電子ジャーナルがあれば印刷体の雑誌は不要」とする回答が3割から4割程度に増加している。

## 【No. 9】

次は、オープンアクセスの実現方策に関する文章である。これに関する以下の問いに答えなさい。

オープンアクセスという概念が広く普及し始める契機の一つとなったのが、2002年に発布されたBOAI (Budapest Open Access Initiative) である。この声明により、インターネットを使って学術雑誌論文を無料で、できるだけ制約なく流通させることが重要な課題であることが提唱された。BOAIでは、オープンアクセスを実現させる2つの方策として、 (ア) と  (イ) が挙げられている。ステイブ・ハーナド (Stevan Harnad) は前者をグリーンロード (グリーン OA)、後者をゴールドロード (ゴールド OA) と名付け、以後こうした呼び方が定着している。

(ア) の実現方策として著者が論文を公開する場合、著者のウェブサイト、大学などの機関リポジトリ、主題別の論文アーカイブなどが公開場所として利用されている。対象となる論文はピアレビュー (査読) のある学術雑誌に投稿して受理されたもので、大多数の出版社は (ア) を許容している。

(イ) とは、利用者からの購読料などの利用料金を徴収せずに刊行されるものであり、最も典型的なビジネスモデルは、読者ではなく論文の著者がその費用を負担する「著者支払いモデル」である。このモデルでは、論文の刊行費用の全額を著者が負担するというものである。この費用は著者個人の研究費などから支出されることが多いが、研究費助成団体や公的資金、寄付金などの支援により著者個人の支払が不要な (イ) も存在する。

(1) 文中の (ア) (イ) の各々に該当する語句を答えなさい。

(2) (ア) の実現方策として列举された下線部の具体的事例として、適切ではないものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

(a) arXiv

(b) CURATOR (千葉大学学術成果リポジトリ)

(c) HUSCAP (北海道大学学術成果コレクション)

(d) PMC (PubMed Central)

(e) RePEc (Research Papers in Economics)

(f) ScienceDirect

(3) 本文にあげられた「著者支払いモデル」において、著者が出版社に支払う料金について何と呼ばれているか下から一つ選んで記号で答えなさい。

(a) ALA

(b) APC

(c) CIP

(d) embargo

(e) EPUB

(f) FTE

(g) PLOS

(h) PPV

## 【No. 10】

次は、デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会の報告書「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」（平成 29 年 4 月）及び国立国会図書館の「国立国会図書館サーチの連携拡張に関する調査報告書」（平成 27 年）の一部抜粋である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

欧米を中心として、様々な分野・領域のアーカイブ機関が連携し、各機関が保有する多様なデジタルコンテンツのメタデータをまとめてインターネットで検索・閲覧できる、国・地域ごとの統合ポータル構築が進んでいる。代表的なものとして、欧州連合（EU）の （ア）、米国の DPLA（Digital Public Library of America）、オーストラリアの Trove、ニュージーランドの DigitalNZ、韓国の公共ヌリ・ポータルなどがある。

統合ポータルの運営者は、国・地域ごとのデジタルコンテンツのメタデータを集約し、ポータルという検索機能を提供するだけでなく、誰もが自由に使えるメタデータを （イ）でも提供している。また、デジタルコンテンツの公開やその活用に向けた取組を行うとともに、デジタルコンテンツを増やすための支援策も積極的に展開している。こうした取組は、それぞれの国・地域における法的制度整備も含めた政策面の後押しと一緒に進められてきたものも多い。

我が国のアーカイブ機関は、国、独立行政法人、地方自治体、民間等の多岐にわたっており、デジタルアーカイブの構築に向けた取組は一部で進みつつあるが、分野を超えたアーカイブ間の連携とデジタル情報資源のオープンな共有化は、全体として進んでいるとはいえない。公的機関が運営する国内最大級の広領域対象の統合ポータルとして、国立国会図書館サーチがある。全国の図書館のほか、博物館・美術館、公文書館、学術研究機関等の一部とも連携し、書誌データを含む 1 億件以上のメタデータが検索可能となっているが、図書館以外の分野との連携はあまり進んでいない。

「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」

NDL サーチ（※国立国会図書館サーチ）でも、領域ごとのアグリゲータからメタデータを収集する、という連携モデルは、既に、部分的に実現している。例えば、大学図書館が運営する機関リポジトリのメタデータはそれを集約する （ウ）と連携することで収集し、学協会が発行する電子ジャーナルのメタデータは、電子ジャーナル刊行プラットフォームである J-STAGE と連携することで収集することが、公開当初より実現している。ただしそのような連携モデルは、現時点では他の領域でも十全に確立されている訳ではない。

「国立国会図書館サーチの連携拡張に関する調査報告」

- (1) (ア) に該当する語句を以下の選択肢から選び記号で答えなさい。
- (a) CLOCKSS                      (b) Europeana  
(c) Google Books                      (d) HathiTrust  
(e) Project Gutenberg                      (f) World Digital Library
- (2) (イ) に該当する、標準的な通信規約に基づいてメタデータの外部連携を実現する機能を表す用語を以下の選択肢から選び記号で答えなさい。
- (a) API                      (b) CGI  
(c) DOI                      (d) EDM  
(e) FTP                      (f) URI
- (3) (ウ) に該当する語句を以下の選択肢から選び記号で答えなさい。
- (a) CiNii Articles                      (b) CiNii Books  
(c) JAIRO                      (d) JapanKnowledge  
(e) J-GLOBAL                      (f) KAKEN
- (4) 問題文に関係した次の記述について、正しいものを記号で答えなさい。
- (a) 国立国会図書館が作成する雑誌記事索引と、国立情報学研究所が学協会等との協力のもとに提供している論文情報データは、それぞれが運用する国立国会図書館サーチと CiNii Articles で相互に収録対象としており、利用可能となっている。
- (b) 国立国会図書館サーチでは、全国の大学図書館等蔵書データを検索対象とするため、各大学図書館等の OPAC システムと直接連携している。このことにより、システムの負荷軽減と同時に CiNii Books では得られない詳細な情報の提供を実現している。
- (c) CiNii Books では民間事業者が作成した図書内容情報データベースを収録しているが、国立国会図書館サーチでは、収録データの信頼性確保のため、データ提供は公的機関に限られており、民間事業者の作成したデータベースは収録していない。
- (d) デジタルアーカイブの統合ポータルで、検索結果にサムネイル／プレビューデータを連携データベースからインターネット送信することはコンテンツの理解を助けるものであり、平成 26 年の著作権法改正により許諾なく利用可能となった。これによって、データの共有と相互運用性が格段に向上することが期待されている。



## 【No. 11】

次は、出版社が共同で設立した電子ジャーナルのリンクシステムである CrossRef の誕生小史 "The Formation of CrossRef: Short History"の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

With the emergence of the World Wide Web, it was inevitable that publishers would use its capacity to disseminate content, and that in time it would be possible to navigate from one publication to another through reference citation linking, greatly benefiting researchers and scholars working in the online environment and librarians facilitating access to online content. It was by no means inevitable, however, that broad-based linking would be achieved through the collaboration of an organization of publishers. The emergence of CrossRef as the linking service of Publishers International Linking Association, Inc. (PILA) is the story of two plotlines that converged dramatically at the 1999 Frankfurt Book Fair — one an initiative to develop a prototype reference linking service using the Digital Object Identifier (DOI), and the other an effort to assemble a coalition of publishers with the critical mass to launch, grow, and sustain such a system.

Craig Van Dyck of Springer-Verlag, described a 1996 meeting at the Manhattan office of Sun Microsystems. "The DOI was invented as an identifier for digital content, but at that point there wasn't a specific application for it," he said. "We were exploring possibilities, trying to 'connect the dots,' and the idea came up that there could be a service that captured metadata for some kind of syndication. As it turned out, the concept of a metadata database incorporating the DOI became the core of the CrossRef system."

At the time, however, publishers were primarily focused on making their journals available online and working out the business models that would make that feasible. There was considerable discussion of linking among journals, but no consensus on how that might be achieved. But by early 1998, several publishers had launched a significant number of their journals on the Web and interest in linking had intensified.

One obvious possibility was that intermediaries such as Thomson ISI (Institute of Scientific Information), with its Web of Science service, as well as Wolters Kluwer's Ovid, CAS (Chemical Abstracts Service, with its ChemPort technology), and others, might provide a solution. Pieter Bolman of Academic Press, addressed this option in a presentation to the International Association of Scientific, Technical, & Medical Publishers (STM) in Heidelberg, Germany, in April 1998, but, advocated direct linking

among publishers as the better alternative. He proposed a DOI-enabled Link Processor, a centrally located “black box” that would process reference information to effect linking. This would allow what came to be known as “distributed aggregation”—broad access via linking to content that primary publishers would continue to hold, as opposed to the centralized aggregation of content by intermediaries that would then provide linking, or the provision of linking by intermediaries functioning as gatekeepers to publisher-held content. The Link Processor would provide maximum publisher autonomy, and equally important, scalability, in sharp contrast to the bilateral linking agreements that a number of publishers and other organizations were beginning to craft. “It is clear,” said Bolman at the time, “that ultimately all publishers need to participate.”

(The Formation of CrossRef: Short History / CrossRef (2009) から抜粋, 一部改変)

- (1) CrossRef 実現の核となったシステムの概念として, 文中で言及されているものを一つ英語で答えなさい。
- (2) Pieter Bolman が提唱した方式の利点として, 他の方式よりもすぐれていると考えられる点を2つ日本語で簡潔に答えなさい。

## 【No. 12】

OPACで、「図書館」、「ラーニングコモンズ」、「学生サービス」がタイトルに含まれる図書を検索したところ、「図書館」では542冊、「ラーニングコモンズ」では265冊、「学生サービス」では343冊がヒットした。また、「図書館」と「ラーニングコモンズ」の両方を含む図書は82冊、「ラーニングコモンズ」と「学生サービス」の両方を含む図書は75冊、「図書館」と「学生サービス」の両方を含む図書は90冊あった。また、これらすべての語を含む図書は27冊であった。

「図書館」、「ラーニングコモンズ」、「学生サービス」のいずれか一つ以上をタイトルを含む図書は全部で何冊か答えなさい。

## 【No. 13】

利用者から以下の質問があった場合、使用するレファレンスツールとして適切なものを下から選んで記号で答えなさい。

- (1) 2014年に死去した高倉健について、当時の雑誌に掲載された追悼記事にどんなものがあるか知りたい。
- (2) 江戸時代（文化11年～天保13年）発行の読本「南総里見八犬伝」を所蔵している大学を知りたい。
- (3) 数学の難問「ケプラー予想 (Kepler conjecture)」の証明について Thomas Callister Hales が著者である論文を入手したいので掲載された雑誌とその巻号を知りたい。
- (4) 大学へ提出する業績報告に記載するため自著の論文が掲載された Nature (ISSN:0028-0836) の2011年と2015年の各年のインパクトファクターを調べたい。

## レファレンスツール

- |                                      |             |
|--------------------------------------|-------------|
| (a) CINAHL                           | (b) ERIC    |
| (c) InCites Journal Citation Reports | (d) MEDLINE |
| (e) SciFinder                        | (f) Scopus  |
| (g) Web OYA-bunko                    | (h) 群書類従    |
| (i) 国史大辞典                            | (j) 国書総目録   |
| (k) 古事類苑                             | (l) 新編国歌大観  |

【No. 14】

次は、高等教育に関わるアメリカの非営利法人EDUCAUSEの "7 Things You Should Know About the Modern Learning Commons" (2011) の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

1. What is it?

The learning commons, sometimes called an “information commons,” has evolved from a combination library and computer lab into a full-service learning, research, and project space. The modern commons is a  place, typically offering at least one area where  can rearrange furniture to accommodate impromptu planning sessions or secure a quiet place to work near a window. In response to course assignments, which have taken a creative and often collaborative turn in the past two decades, the learning commons provides areas for group , tools to support creative efforts, and on-staff specialists to provide help as needed. And yet the successful learning commons does not depend solely upon adaptable space configuration or the latest technological gear. Its strength lies in the relationships it supports. Effective learning commons are alive with the voices of  working together, establishing the kinds of connections that promote active, engaged learning.

2. How does it work?

The village green, or “common,” was traditionally a place to graze livestock(\*), stage a festival, or meet neighbors. This concept of social utility underlies the philosophy of the modern learning commons, which is a flexible environment built to accommodate multiple learning activities. Designing—or redesigning—a commons starts with an analysis of  needs and the kind of work they will be doing. That said, the coordinating central unit might be an established facility like a library, equipment lab, or a familiar  gathering space, and the kinds of resources these units contain can be as varied as the needs they address. The central unit is frequently a generous space furnished for informal face-to-face gatherings; other areas can include  rooms, writing centers, tutoring venues, advisor offices, and nearby access to food and drink. To reinforce that this is a -centric area and to inspire the creativity of others, physical areas in the commons may also prominently display and promote  efforts. -generated artwork may appear on walls, while videos, essays, and music may be presented on other media.

(graze livestock(\*) 家畜に草を食ませる)

(抜粋, 一部改変)

(1) 本文の論旨から、文中の(ア)に該当する最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

(a) meeting (b) performing (c) relaxing (d) researching

(2) 本文の論旨から、文中の(イ)に該当する最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。ただし、箇所によって語形が変化する場合がある。

(a) faculty (b) librarian (c) researcher (d) student

(3) 筆者は”common”の歴史的な用法に由来するラーニングコモンズの特徴をどのようなものと考えているか。日本語で簡潔に書きなさい。

## 【No. 15】

次は、Nature に掲載された日本の科学研究の低迷についての記事である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Japan's premier scientific research institution, RIKEN, turned 100 this year, and celebrated with a grand ceremony attended by the empress and emperor. But not everybody was in the mood to party. In the old days, RIKEN was known as a paradise for scientists because of its generous funding. No longer: as Japan cuts off funds in the face of continuing financial uncertainty, the cracks are starting to show.

One scientist affected is Takaomi Saïdo, who researches Alzheimer's disease at RIKEN's Brain Science Institute (BSI) in Wako. At around the time of the centenary event in April, he was told that he would have 43% less money this year to support his work. Saïdo posted an angry response online, saying he wasn't given enough warning to find money to pay his staff and take care of his mice, which he says are sent to 250 laboratories around the world.

The problem is one of priorities, and is neatly demonstrated by a white paper published by Japan's science ministry last month. It is dominated by discussion of innovation, and how to foster greater interaction between businesses and academia to achieve it. One way is to drain funds from more-basic science; as a result, universities and research institutes, including RIKEN, are getting squeezed.

RIKEN's budget has been cut by more than 20% over the past 10 years. In response, the BSI has reduced its number of principal investigators from 61 to 41 over that period.

Japan's universities are in similar straits. Following reforms in 2004, their budgets have declined by 1% every year. The move was meant to make universities more responsive to strategic initiatives and more competitive, by aligning their research with industrial or military needs. But it has triggered other, less positive changes. The universities stopped hiring professors. New staff are brought in as contract employees, who flit from grant to grant to stay afloat.

The science ministry's white paper acknowledges that this has "given birth to a situation in which young researchers, facing unstable employment conditions and economic uncertainty, are forced to aim for results that can be accomplished in the short term and in which true originality and creativity are difficult to realize".

And it's not just the young ones. Thanks to greater administrative and grant-writing burdens, university researchers say they can put little more than one-third of their work time into research, compared with just under half in 2002.

As the economic and political headwinds increase, Japan's policymakers and administrators should do more to support scientific research through these unstable times. Universities need to make clear as early as possible what cuts are coming. RIKEN warned researchers that the incoming budget would be tight, but Saido says he heard nothing to suggest such a severe drop.

Institutions must also be more transparent. Other RIKEN researchers who shared Saido's frustration were afraid to talk about it openly because they felt so uncertain about their positions. A coming reorganization of RIKEN institutes is a major cause for concern. Scientists there don't know whether they will still have a job this time next year.

Japan rues the collapse of its ability to produce and publish important scientific findings, but it shouldn't be surprised: its publication record maps neatly onto its science and technology investment, both flat since 2000. Its scientists see the drop in global competitiveness measured by research papers (from fourth in the world in 2004 to tenth in the world in 2014) and look with envy at China and other nations that are increasing both their funding and their publication rates. Japan is rightly proud of its scientific past, but it must do more to safeguard its future.

- (1) 文中の reforms in 2004 は何をさしているか日本語で答えなさい。
- (2) 文中から reforms in 2004 の目的は何であったと論じているか日本語で答えなさい。
- (3) 文中から日本の科学研究が低迷している具体例を日本語で簡潔に答えなさい。